序

足利市は，日本最古の学校のあるまちであります。しかし，明治・大正の時代をへて社会も産業社会から情報化社会へと発展してきた現在，足利の教育がどのような状態になっているか，あるいはいかにあるべきなのであろうかということを考究することは，私どもの責務であると考えられます。そこで昭和４７年度の教育論文集は，論説テーマを「足利の教育の原点を求めて」として刊行することになりました。

このたびの応募数は１４編，そのうち論説の部は１編，実践記録の部は１３編（学校経営１編，学級経営３編，学習指導一般２編，国語１編，社会科１編，算数・数学１編，体育２編，道徳１編，特活１編）あり，研究領域も教育活動の全般にわたり，調和のとれたしかも充実したものであったと思います。これは足利地区の先生方の教育研究がいよいよ充実発展しつつあることを示すものであり，まことに頼もしい限りであります。

特に今年度の特色としては，グループによる研究実践記録が加わったことがあげられます。個人研究もちろん結構ですが，テーマによってはグループによる研究の方がより効果的な場合も多いものと思います。しかしグループが単なる個人の集合体ではこのような研究成果をあげることは不可能だと考えられます。グループがティームとして同一の方向に向って固い凝集性を発揮する時のみ大きな実績をあげ得るものと信じます。

教育という仕事は，平凡なことを地道につみあげて非凡にする尊い仕事だと思います。それには日々の教育活動の中でマンネリ化することなく，常に教師が問題意識をもって教育実践に取り組むことが何より大切だと思います。

この貴重なすぐれた研究記録が，より多くの先生方の日々の研究の参考として，いっそうその発展に役立つとともに，各学校における実践活動の中にじゅうぶん生かされるよう念願して序といたします。

昭和４８年３月

足利市立教育研究所長
中　村　　章